



矢島 渚男 選

ペリリュー島に戦死の次兄迎え盆
下妻市 神郡 貢

【評】敗戦へ向かってアツツ島「玉砕」サイパン島「玉砕」に続いて、ペリリュー島の悲惨な全滅は国民に知らされなかった。作者も兄の戦死地を知らなかった。

前日に焼かれし故郷終戦日
伊勢崎市 岩村千恵美

【評】原爆が投下された後、地方都市への焼夷弾の投下が相次いだ。住民の運命はたった一日で分かれた。戦闘員一人一人にもそうであった。縄文は涼しき頃よ遺跡掘る

仙台市 佐藤 庄陸

【評】縄文時代はもっと涼しかっただろうな、などと話しながら遺跡を掘っている人々。今年の異常な暑さの中で汗を拭きつつ。

帰省子の神妙なるは不気味なり
奈良市 上田 秋霜

被爆電車今も現役広島忌
大津市 千川 修一

持ちよりの椅子や納涼コンサート
宝塚市 広田 祝世

泣いた分塩分を摂る炎天下
東京都 関根ともみ

長崎忌死に損ないの卒寿なり
神崎市 香月富士雄

草いきれかつては遠き通学路
千葉市 宇野嘉世子

また泳ぎ足らぬ子沖を見てばかり
深谷市 酒井 清次

高野ムツオ 選

太陽に四十六億歳の夏
六栗市 宗平 圭司

【評】一億年を一位とすれば、太陽の寿命は約百億年だから丁度今が壮年期。太陽にとって一年など、一瞬間に過ぎないが、その太陽を仰ぐ炎夏の夏百日の一日である。

ここに山ここに川ある帰省かな
町田市 枝沢 聖文

【評】懐かしい山河の元へ、今年も帰ることができ喜びが「ここに」の繰り返しから直に伝わる。「ここ」はまた作者の心の奥底でもある。暑中見舞夫を亡くせし友より来

東京都 松永 京子

【評】友からの暑中見舞状。新盆の前に、まだ心の整理が着かないにも関わらず、周りに配慮を欠かさない友の優しさに心打たれている。

笑ひごゑにふはりとしり夏めれん
前橋市 豊嶋啓一朗

夏帽子一人荷台に一人背に
唐津市 室井加代子

蟬の殻老人ばかり残る街
葛城市 二上 三六

カーテンを閉める夕焼見届けて
東京都 山田真理子

着岸のロープちりちり鳴る帰省
大阪市 今井 文雄

眼のやつに泉瞬く草の中
東京都 天地わたる

風鈴やだあれも聞かぬ老いの夢
松山市 三木須磨夫

正木ゆう子 選

探鹹を神馬にも汲む土用かな
津市 中山 道春

【評】塩を作るため、海水を濃縮することを探鹹というそうだ。真夏の塩分補給に、それを馬に与える。神馬であること、また土用という季節が、古式に則った製塩法に相応しい。玉葱を遮二無二刻み冷凍す

宇都宮市 松広 訓

【評】大量消費の時に私もよくする。保存がきき、すぐに使えて便利。「遮二無二」が大げさで面白い。単純作業に没頭しているだけなのだが。盆帰省アニメ聖地と化す町へ

川越市 大野宥之介

【評】アニメに縁のある土地へ行く「聖地巡礼」なる言葉も今や聞き慣れた。観光地でもない普通の町だったのに、帰省してみたら大賑わい。夜光虫摘まめば消えてしまひけり

大東市 堀 志泉

折角の誘ひ断る暑さかな
埼玉県 矢内とき子

眠る子に真っ直ぐ届け青田風
川崎市 久保田秀司

芭蕉葉のどしゃ降りの雨抱へけり
武蔵野市 相坂 康

あこがれは老衰さるすべり白し
東京都 関 美奈子

茄子の馬犬と一緒に帰り来よ
和泉市 山崎 文恵

梅昆布茶飲みて我流の暑気払ひ
松山市 高山 洋子

小澤 實 選

速泳やコーチ配りしパイン鉛
京都市 根来美知代

【評】水泳のコーチが前もって配ってくれた。パイン味の鉛を舐めながら、長距離を泳いでいくのだ。パイン味は元気が出そう。泳ぎ手のコーチへの信頼も感じとれる。ラムネの中から引っこ抜くラムネかな

甲府市 村田 一広

【評】たぐさんのラムネが氷水の中に立てて並べられている。その中から一本だけを選び、抜き出す。「引っこ抜く」に重みや冷気を感じると。蠅やひこりが楽と母は笑む

岡山市 柏瀬真理子

【評】一人住まいの老いた母に今後のことを聞いた際の答だろう。上五中七、下五の語頭がh音になっている。蠅の鳴き声が聞こえてきた。揺る前に山芋のヒゲ火で炙る

川口市 高橋まさお

父母と猫の遺影や盆の棚
川崎市 加藤 英行

首筋を拭ふおしほり秋暑し
伊勢市 藤田ゆきまら

新聞のインクのにほひ今朝の秋
東京都 中沢 治美

トーチカの朽ち埋もれぬ海霧深し
国分寺市 野々村澄夫

赤ん坊の頭くらい丸い茄子
千葉市 福岡 初代

球審の右手あがつて夏おわる
東京都 青木 公正

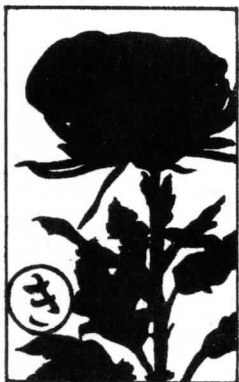
最近、二重投稿や類似作が多く見受けられます。「読売俳壇・歌壇」では、次のような入選取り消し規定を設けています。

- ① 明らかな盗作の場合
- ② 応募作品が、すでに発表されている作品の類似作と認められた場合
- ③ 応募作品が二重投稿の場合

以上に該当することが明らかになった場合、故意かどうかにかかわらず入選を取り消します。

また、複数の選者、本紙地域版をはじめ、他の新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、ネット、SNS（Xやインスタグラム）などの媒体に、同一作品、類似作品を二重に投稿することは絶対におやめください。応募の際には作品を十分に見直したうえで、投稿してください。

おこわり 8月20日歌壇に掲載された「お前とよめさしき呼び名に呼ばるる」とこの後のわれになさむしきよいは、類似作があるため入選を取り消します。



題字デザイン・イラスト 福田美蘭